

平成16年度第1回マナーに関するアンケート集計 6月実施

調査人数

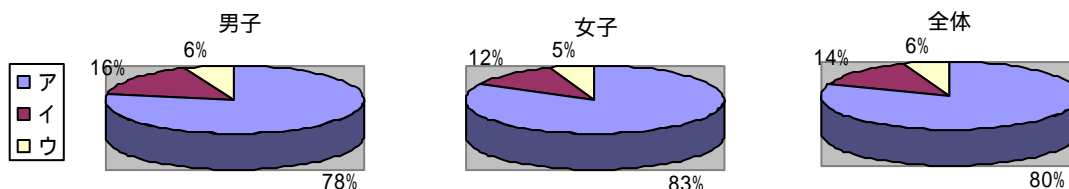
1年	男子	94名	女子	91名	計	185名
2年	男子	81名	女子	69名	計	150名
3年	男子	75名	女子	83名	計	158名
全校	男子	250名	女子	243名	計	493名

1 あいさつについて

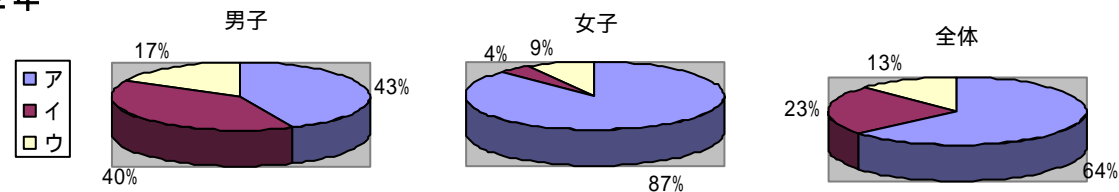
先生や来校者，友達や先輩・後輩に対して

ア 進んであいさつができる イ 相手がしてくれたらあいさつをする ウ ほとんどあいさつをしない

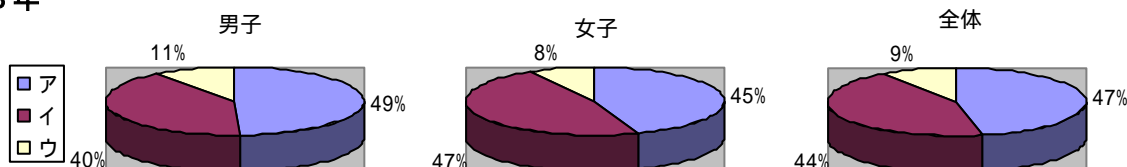
1年



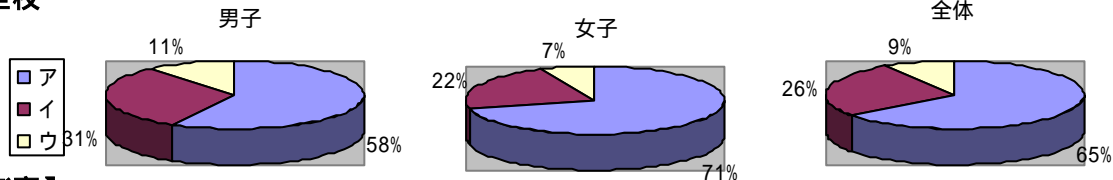
2年



3年



全校



【考察】

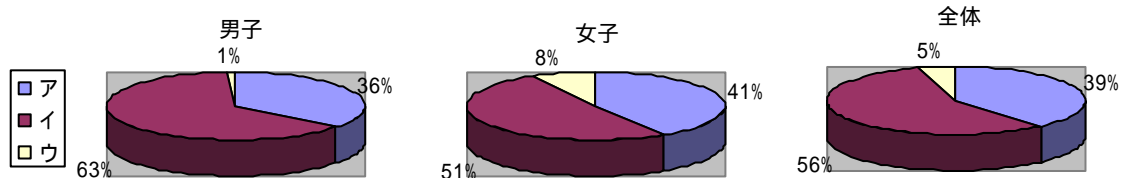
前回1月調査と比較すると，全校では「進んであいさつができる」が+5。男子は女子の71%に比べて少ないポイントではあるが58%で+8と向上している。学年別では，昨年同様1年生が最も高く，昨年同時期調査の1年生と比較すれば男子が+21と高い。2年生は男子が前回調査1月と同率であるが女子が-6になっている。3年生も女子が前回より-21と大幅に低くなっている。女子の方が学年が上がるとあいさつがよくできる率が下がる傾向になっている。

2 言葉づかいについて

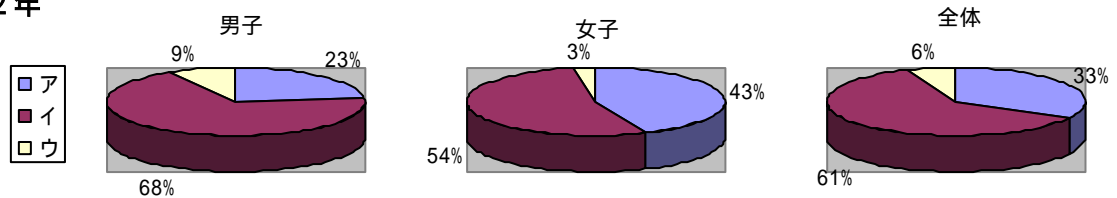
先生や先輩・後輩にたいしてその場に応じた適切な言葉づかいが

ア きちんと使い分けができる イ 少しは使い分けができる ウ ほとんどできない

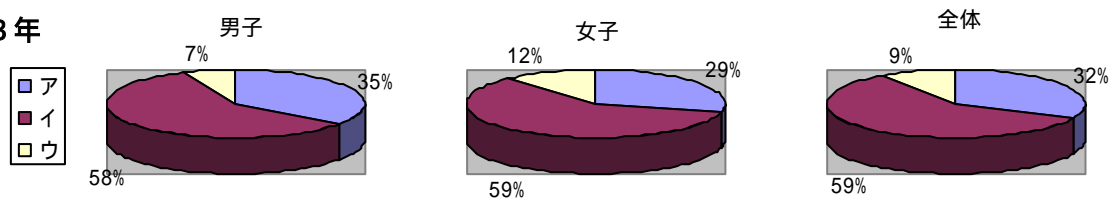
1年



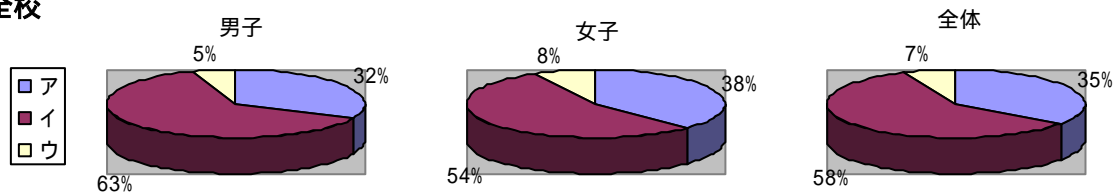
2年



3年



全校



【考察】

昨年の同時期調査の1年生に比べると男子いいが、女子の「ほとんどできない」の8%が気になる。2年生は前回より少しではあるが悪い傾向へとポイントが下がっている。3年生は「きちんと使い分けができる」は男子が+7、女子+4と共に上がっている。成長している証とも取れるが、面接のことを考えると35%から50%へと上げていかなければいけない。

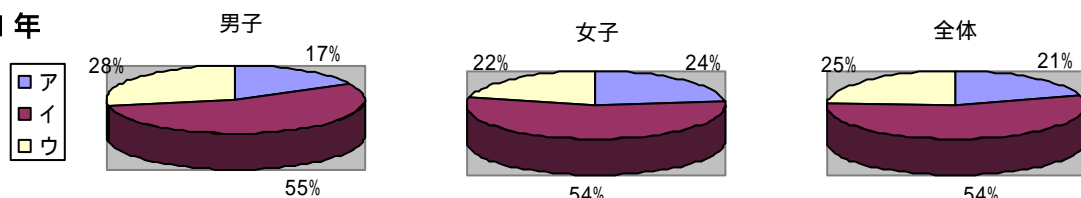
全体として「きちんと使い分けができる」の31%は低く指導が必要である。

3 私語について

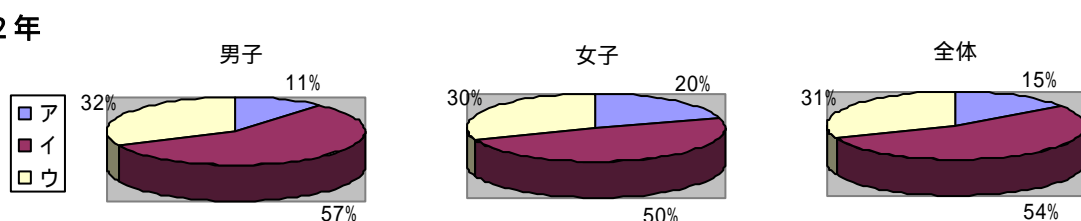
集会・授業中で話をしてはいけないときにお喋りを

ア ほとんどしない イ 時々する ウ よくする

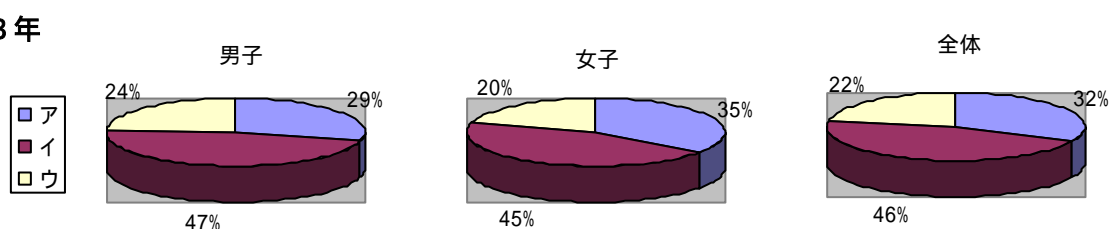
1年



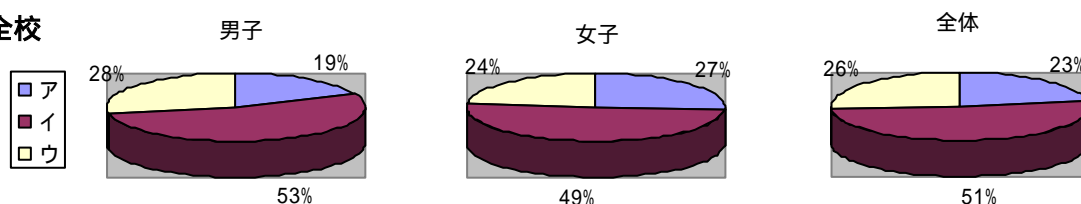
2年



3年



全校



【考察】

「よくする」が4人に一人の割合は学力向上への最低限のことだけに憂慮すべきことである。昨年同時期調査でも「よくする」は全校21%でよくなかった。授業規律確保のために努力も手立てもして臨んでいるが効果が現れていない。教師サイドとしてもっと工夫し魅力ある指導法の研修が求められる。

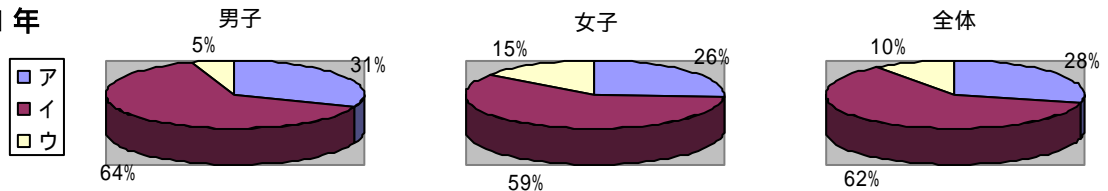
一方、生徒一人一人が学習に取り組む姿勢を自己反省し、集団として私語をしない学習環境を自らつくりあげていこうとする自覚が求められる。

他に改善の具体策として、リーダー養成、学級集団での徹底討議、生徒会での取り組み、個人指導、授業妨害のペナルティー等が考えられる。

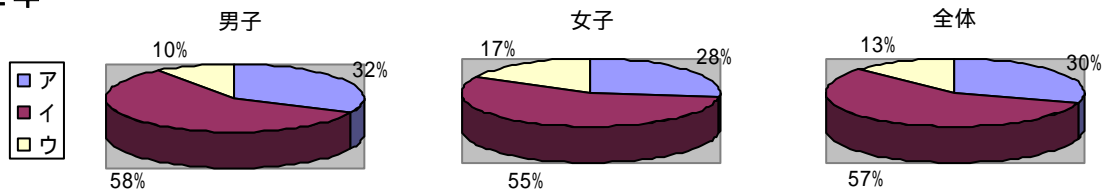
4 清掃について

ア きれいにするためによくする イ いちおう時間内は適当にする ウ さぼったり遊んだりしてほとんどしない

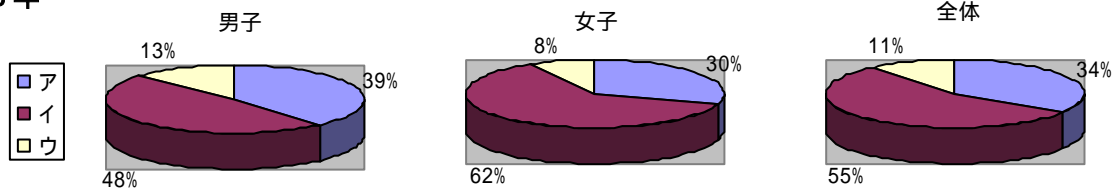
1年



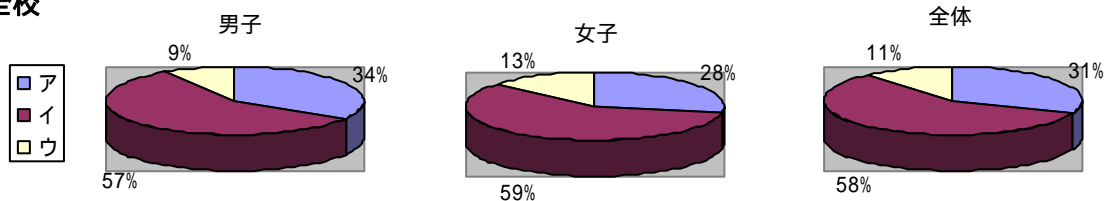
2年



3年



全校



【考察】

「きれいにするためによくする」を全校で見ると31%は前回1月調査と同率である。男女別に見ると、男子の方が「きれいにするためによくする」割合が各学年とも女子より高い。

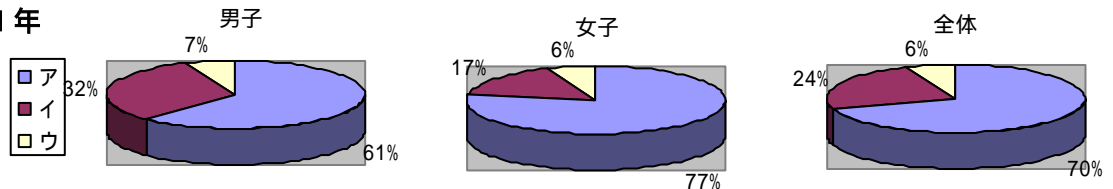
学校が落ち着いて機能しているかどうかの判断材料に「あいさつをする」「清掃をする」「声を出して歌える」の3つがある。公共のものをきれいにするという意識を養うためにも「きれいにするためによくする」の割合を40%までに高める必要がある。経験論から、周りがよく清掃をするようになれば自然と「適当にする」群が「よくする」に入っていくと思われる。

5 身だしなみについて

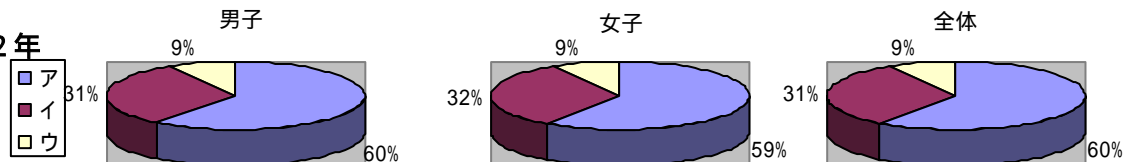
ネーム・校章・学年章は付けられているか。靴のかかとを踏みつけていないか。
シャツをズボンの中に入れていないか。スカートの長さは標準であるか。

ア ほとんどできている イ 時々忘れていたり注意を受けたりするがだいたいできている ウ ほとんどできて
いなく、よく注意を受ける

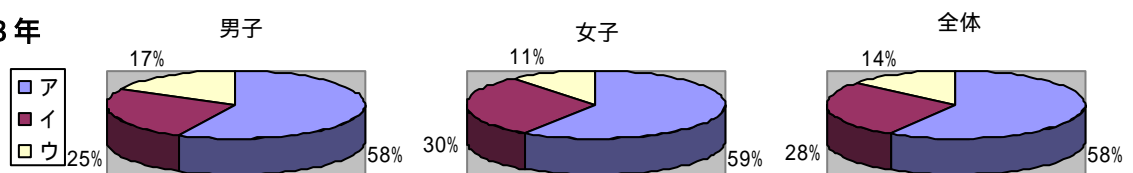
1年



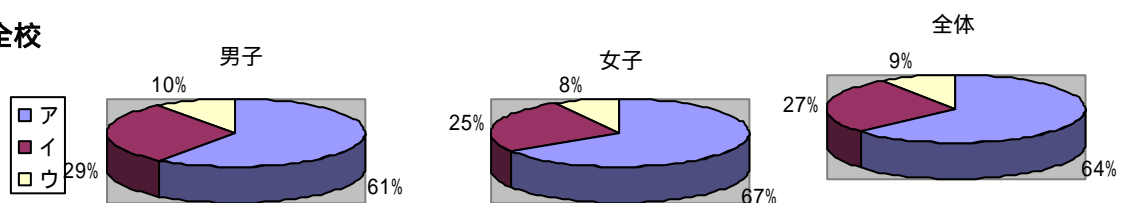
2年



3年



全校



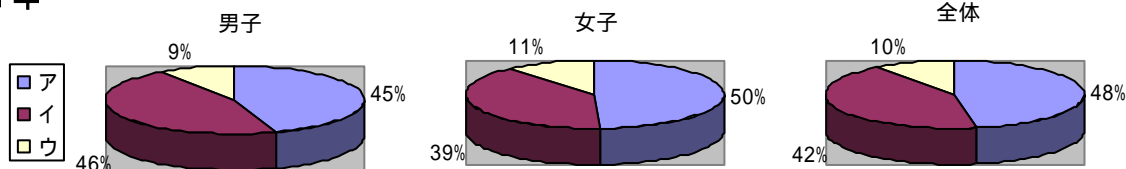
【考察】

全校結果を見ると「ほとんどできている」は64%で前回1月調査より5%下がっている。下がった原因を数字上から見ると、女子においてその数が顕著に表れている。2年は前回より3%、3年は2%と共にポイントを大幅に下げている。主観的に見て男子が女子より出来ていないように見えるが、身だしなみについて男女間の意識の違いもあるだろうか。

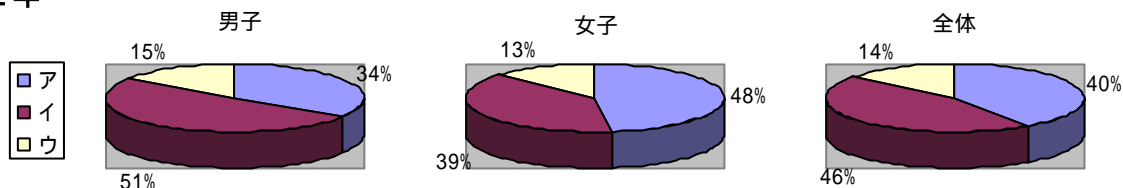
服装は乱れると蔓延し指導に労力と時間を要するので、時・場所・目的に応じた着こなし、通学服が正統なユニフォームとして基本であること、きちんとした身だしなみは大切なことである等の指導を常にしなければならない。

マナー5項目についてア・イ・ウの割合

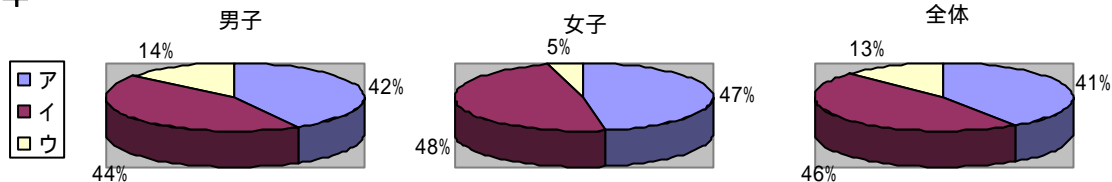
1年



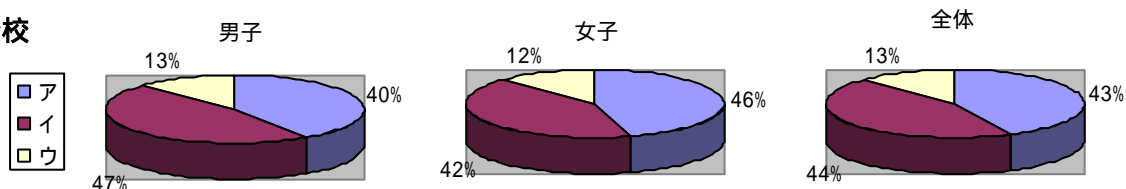
2年



3年



全校



【考察】

昨年度同時期調査との比較では、全校のア群（よい）は43%で同率、ウ群（よくない）は-3ポイントになっている。前回1月調査でも、ア群は43%で同じであり、ウ群は-2ポイントとよくない群が少し増えている。

「よい群」を学年別に見ると3年生が前回調査より男女ともよくなり7ポイント上がり41%になっている。2年生では4ポイント下がり40%、女子において-7、男子-1ポイントである。1年生は全校の中で一番よく48%であり、1年生がよい数字は昨年と同じである。

1年生がよく、2年生で低くなり、3年生でまた少しよくなるのは中学生の発達段階の過程と捉えてよい。

「マナーのよい学校」を特色として打ち出し取り組んでいくためにも「よい群」の目標を50%にし、規範意識の乱れの今、マナーのよい生徒を育てていかなければならない。そのためには学校の指導・責任はもちろんのこと、生徒の自覚、家庭での指導範囲の明確化と協力体制をより強めていかなければならない。